

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

物質「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。生物の特徴、

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/ 8,9	1	物質の成分と構成元素	6～30
2	10/15,16	2	原子の構造と原子の周期表 ・原子の構造	34～39
3	10/22,23	2	原子の構造と原子の周期表 ・電子配置と周期表	40～47
4	10/29,30	3	化学結合 ・イオン結合	48～55
5	11/ 5,6	3	化学結合 ・共有結合 ・金属結合	56～77
6	12/ 3,4	4	物質量と化学反応式	80～85
7	12/10,11	4	物質量と化学反応式 ・物質量 ・化学反応式	86～104
8	12/17,18	5	酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH	106～123
9	1/ 7,8	5/6	酸と塩基 ・中和滴定 酸化還元反応	124～134 136～151
10	1/14,15	6	酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	152～164

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「物質」「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/23, 24	1	物質の成分と構成元素	6～30
2	4/30, 5/1	2	原子の構造と原子の周期表 ・ 原子の構造	34～39
3	5/ 7, 8	2	原子の構造と原子の周期表 ・ 電子配置と周期表	40～47
4	5/14, 15	3	化学結合 ・ イオン結合	48～55
5	5/28, 29	3	化学結合 ・ 共有結合 ・ 金属結合	56～77
6	6/25, 26	4	物質量と化学反応式	80～85
7	7/2, 3	4	物質量と化学反応式 ・ 物質量 ・ 化学反応式	86～104
8	7/9, 10	5	酸と塩基 ・ 水素イオン濃度とpH	106～123
9	7/16, 17	5/6	酸と塩基 ・ 中和滴定 酸化還元反応	124～134 136～151
10	7/23, 24	6	酸化還元反応 ・ 酸化還元反応の応用	152～164

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇使用教科書

科学と人間生活 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/23, 24	1	生命の科学 微生物とその利用	p14~37
2	4/30, 5/1	1	微生物とその利用 ヒトの生命現象	p30~45
3	5/7, 8	2	ヒトの生命現象 物質の科学	p46~69
4	5/14, 15	2, 3	生命の科学・物質の科学 材料とその再利用	p70~81
5	5/28, 29	3	物質の科学 材料とその再利用・衣料と食品	p82~115
6	6/25, 26	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p116~137
7	7/2, 3	4, 5	光の性質とその利用 熱の性質とその利用	p138~147
8	7/9, 10	5	光や熱の科学・宇宙や地球の科学 太陽と地球	p148~179
9	7/16, 17	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p180~189
10	7/23, 24	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p190~207

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境についてまなぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇使用教科書

科学と人間生活 啓林館

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/8, 9	1	生命の科学 微生物とその利用	p 14~37
2	10/15, 16	1	微生物とその利用 ヒトの生命現象	p 30~45
3	10/22, 23	2	ヒトの生命現象 物質の科学	p 46~69
4	10/29, 30	2, 3	生命の科学・物質の科学 材料とその再利用	p 70~81
5	11/5, 6	3	物質の科学 材料とその再利用・衣料と食品	p82~115
6	12/3, 4	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p116~137
7	12/10, 11	4, 5	光の性質とその利用 熱の性質とその利用	p 138~147
8	12/17, 18	5	光や熱の科学・宇宙や地球の科学 太陽と地球	p 148~179
9	1/7, 8	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 180~189
10	1/14, 15	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p 190~207

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/23, 24	1	生物の多様性と共通性 細胞の特徴	10～20
2	4/30, 5/1	1	生物とエネルギー 酵素のはたらき	20～42
3	5/7, 8	2	遺伝情報とDNA DNAの複製と分配	43～57
4	5/14, 15	3	遺伝情報とタンパク質の合成 タンパク質と遺伝情報	58～62
5	5/28, 29	3	遺伝情報とタンパク質の合成 細胞の分化と遺伝子	63～73
6	6/25, 26	4	ヒトの体を調節するしくみ 体内環境	74～99
7	7/2, 3	4	ヒトの体を調節するしくみ 神経系による情報伝達	74～99
8	7/9, 10	5	免疫のはたらき 免疫のしくみ	100～105
9	7/16, 17	5	免疫の応用 免疫とさまざまな疾患	106～119
10	7/23, 24	6	生物の多様性と生態系 植生と遷移 バイオーム	120～165

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸問題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	10/8, 9	1	生物の多様性と共通性 細胞の特徴	10～20
2	10/15, 16	1	生物とエネルギー 酵素のはたらき	20～42
3	10/22, 23	2	遺伝情報とDNA DNAの複製と分配	43～57
4	10/29, 30	3	遺伝情報とタンパク質の合成 タンパク質と遺伝情報	58～62
5	11/5, 6	3	遺伝情報とタンパク質の合成 細胞の分化と遺伝子	63～73
6	12/3, 4	4	ヒトの体を調節するしくみ 体内環境	74～99
7	12/10, 11	4	ヒトの体を調節するしくみ 神経系による情報伝達	74～99
8	12/17, 18	5	免疫のはたらき 免疫のしくみ	100～105
9	1/7, 8	5	免疫の応用 免疫とさまざまな疾患	106～119
10	1/14, 15	6	生物の多様性と生態系 植生と遷移 バイオーム	120～165

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物	通年3単位	9枚	14時間	12時間

◇科目の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

生命現象と物質、遺伝、生殖と発生、環境応答、生態、進化と系統について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇使用教科書

スタンダード生物 東京書籍

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/23, 24	1	細胞	1～15
2	4/30, 5/1	1	タンパク質の構造と働き	16～21
3	5/7, 8	2	酵素としてはたらくタンパク質	22～31
4	5/28, 29	2	免疫にかかわるタンパク質	32～47
5	6/25, 26	3	代謝とエネルギー、呼吸、光合成	48～69
6	7/2, 3	4	DNA、遺伝情報の発現	70～77
7	7/9, 10	4	セントラルドクマ、	78～98
8	7/16, 17	5	バイオテクノロジー、ゲム解析、バイオテクノロジーの応用	99～113
9	7/23, 24	6	メンデルの法則、血液型	114～130
10	10/15, 16	6	発生、予定運命	131～141
11	11/5, 6	7	形成体（オーガナイザー）、誘導の連鎖	142～147
12	12/3, 4	8	クローン技術、ニューロン	148～169
13	12/17, 18	8	興奮の伝導、興奮の伝達	170～181
14	1/7, 8	9	脳と脊髄、行動	182～228

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3, 4, 5	後期	レポート 6, 7, 8, 9
----	--------------------	----	-----------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	前期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書 地学基礎（東京書籍）

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書
1	4/23.24	1	1編 私たちの大地	12～49
2	4/30 5/1	1	1編 私たちの大地	12～49
3	5/7.8	2	2編 私たちの空と海	52～73
4	5/14.15	2/3	2編 私たちの空と海／3編 私たちの宇宙の誕生	52～95
5	5/28.29	3	3編 私たちの宇宙の誕生	74～95
6	6/25.26	4	4編 私たちの地球の歴史	96～127
7	7/2.3	4	4編 私たちの地球の歴史	96～127
8	7/9.10	5	5編 地球に生きる私たち	128～147
9	7/16.17	5/6	5編 地球に生きる私たち	128～169
10	7/23.24	6	5編 地球に生きる私たち	148～169

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3	後期	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	後期2単位	6枚	10時間	8時間

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇使用教科書 地学基礎（東京書籍）

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授 業 内 容	教科書
1	10/8.9	1	1編 私たちの大地	12～49
2	10/15.16	1	1編 私たちの大地	12～49
3	10/22.23	2	2編 私たちの空と海	52～73
4	10/29.30	2/3	2編 私たちの空と海／3編 私たちの宇宙の誕生	52～95
5	11/5.6	3	3編 私たちの宇宙の誕生	74～95
6	12/3.4	4	4編 私たちの地球の歴史	96～127
7	12/10.11	4	4編 私たちの地球の歴史	96～127
8	12/17.18	5	5編 地球に生きる私たち	128～147
9	1/7.8	5/6	5編 地球に生きる私たち	128～169
10	1/14.15	6	5編 地球に生きる私たち	148～169

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3	後期	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	物理基礎	通年3単位	9枚	14時間	12時間

◇科目の目標

物理や物理現象に対する探究心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

物体の運動とエネルギー、さまざま物理現象とエネルギーについて学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇使用教科書 物理基礎 (東京書籍)

◇スクーリング計画

回	月 日	レポート	スクーリング内容	教科書
1	4/23.24	1	1編 1章 直線運動の世界(速さ)	p 10~25
2	4/30 5/1	1	1章 直線運動の世界(加速度)	p 10~25
3	5/7.8	2	1章 直線運動の世界(自由落下)	p 26~33
4	5/28.29	2	1章 直線運動の世界(鉛直投射)	p 26~33
5	6/25.26	3	2章 力と運動の法則(力とは)	p 34~65
6	7/2.3	3/4	3章 仕事とエネルギー(仕事)	p 34~91
7	7/9.10	4	3章 仕事とエネルギー(重力)	p 66~91
8	7/16.17	5	2編 1章 熱	p 96~107
9	10/8.9	6	2章 波	p 110~131
10	10/15.16	7	3章 電気(電気抵抗)	p 134~141
11	11/5.6	7/8	3章 電気(直列並列)	p 134~153
12	12/3.4	8	3章 電気(磁界)	p 142~153
13	12/10.11	9	4章 エネルギー(利用)	p 154~171
14	12/17.18	9	4章 エネルギー(放射線)	p 154~171

◇テスト範囲

前期	レポート 1. 2. 3. 4. 5	後期	レポート 6. 7. 8. 9
----	--------------------	----	-----------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの